

科目区分	専門基礎分野	授業科目	臨床推論
講師名	田向 宏和	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)	開講年次	3 年次 第 2 学期
授業概要 * 講師からのメッセージ			
<p>目的：患者とその家族を対象の状況を把握・アセスメントし、その上で臨床推論することで最善の看護行動に結びつけることができる。</p> <p>目標：1. アセスメントに活かす臨床推論技術が理解できる。 2. 緊急レベル信号で判断する症状別アセスメントが理解できる。 3. 臨床推論技術を活用しケースにおける最善の看護行動を考えることができる。</p>			
回	授 業 内 容		
1	1. アセスメントに活かす臨床推論技術		
2	2. 緊急レベル信号で判断する症状別アセスメント	発熱・高体温	
3	2. 緊急レベル信号で判断する症状別アセスメント	呼吸困難	
4	2. 緊急レベル信号で判断する症状別アセスメント	低血圧	
5	2. 緊急レベル信号で判断する症状別アセスメント	高血圧	
6	2. 緊急レベル信号で判断する症状別アセスメント	浮腫	
7	2. 緊急レベル信号で判断する症状別アセスメント	手のしびれ・麻痺	
8	2. 緊急レベル信号で判断する症状別アセスメント	高齢者のケア	
9～10 【演習】	1) アセスメントトレーニング その1 高齢者 インフルエンザ SPO ₂ → 80 歳、女性。インフルエンザで自宅療養中。4 日経っても症状改善なく入院。既往歴に気管支喘息 SPO ₂ 95%→88%、GCS10 点 (E3V3M4)、肩呼吸あり、37.8C→38.5℃		
11～12 【演習】	3. アセスメントトレーニング その2 成人期・交通事故・呼吸困難の事例 →25 歳、男性。バイク走行中に交通事故で救命救急センターに搬送。JCS I-1、右肺 Air 入り不良、左右差あり		
13～14 【演習】	3. アセスメントトレーニング その3 青年期・下肢のむくみ・倦怠感の事例 →17 歳、男性。下肢むくみ。母親とともに来院。全身性浮腫。意識レベル清明、歩行時軽度息切れ。BUN2.8mg/dl、Cr2.3mg/dl、ASO338IU/ml、C ₃ 18mg/dl、CH ₅₀ 20U/ml。脳タンパク陽性、尿潜血陽性、BP142/84mmHg やや上昇		
15	まとめ 45 分 終了試験 45 分		
授業方法	講義+演習 (個人ワークとグループワーク→意見交換)		
評価方法	科目修了試験 90% + 演習ノート提出 10% 評価基準参照		
テキスト	MC メディカ出版：小澤知子 アセスメントに自信がつく臨床推論入門		
備考			